

誰もが知りたい  
ローザンヌ宣教シリーズ

No. 8  
伝道と世俗化



*Let  
the Earth hear  
His Voice*

**Lausanne  
Occasional  
Papers**

No. 8  
Thailand Report-

**Christian Witness  
to Secularized People**

Lausanne Committee for World Evangelization

関西ミッション・リサーチ・センター/日本福音同盟

誰もが知りたい  
ローザンヌ宣教シリーズ

No. 8

# 伝道と世俗化

( 1984年 )

## ローザンヌ宣教シリーズ

### 邦訳出版に際して

近代におけるキリスト教会の宣教歴史にとって、1974年7月、スイスのローザンヌで開かれた世界宣教国際会議は、極めて画期的なものとして高く評価されてきました。単に、世界150カ国から、プロテスタント135教派または団体から、約2500人がキリスト者にとっての至上命令である宣教について、共に考え、学び、論じ、祈りあうために集まったというだけが、その評価のすべてではありません。（もちろん、それ自体すばらしいことです）。むしろ、次の二点にそのような高い評価の焦点があるようです。ひとつは単に10日間という会議だけに終わらず、そこで考え、論じられたことが、継続的、かつ進展的に今に到るまで尚も、変動を続ける現代の世界において教会は如何にその宣教の責任を果たしてゆくべきか、組織的に委員会などによって考え、論じ続けられていることです。1980年6月にタイ国のパッタヤで開かれた「世界宣教協議会」などはそのよい例です。もうひとつの点は、世界における福音宣教ということが、垂直線的にのみでなく、それとともに、文化及び社会をグローバルに、巾広く把えながら人間の全人的な救いということとして、福音主義の立場から真剣に取りあげられて来たことです。

今まででもそうでしたが、特に現代では、キリストの福音宣教、世界の福音化ということは、各自、各教会が、おのおのの置かれている文化的、社会的現実の中で宣教の業に参与しながら、同時に広く世界的な視野に立った教会、または各自としての性格づけ、位置づけを前向きの姿勢で維持してゆかねばなりません。ローザンヌ宣教シリーズの多くは、そのような大切な問題を極めて適切に取扱っています。また、関西ミッション・リサーチ・センター（KMRC）も、その創設当初より、日本という文化と社会の中にありなが

ら、世界的な視野をもった福音主義の宣教研究所として活動して来たことを思いますと、今回そのシリーズを、日本福音同盟の理解ある協力を得て、このような型で邦訳出版し得るのは、神の不思議な御摂理であると考えざるを得ません。今後、順次邦訳出版する計画のこのシリーズは、いづれもキリスト者であれば文字通り「誰もが知りたい」内容のものであることを確信しています。また、出来るだけ多くの人々に、愛読書宣教シリーズとして利用して頂き、みんなで、日本の宣教、世界の宣教について考え、学び、祈るための貴重な資料となるよう願っています。

終わりに、このシリーズの日本語翻訳及び出版権を許可下さったローザンヌ世界宣教国際会議の継続委員会と、このシリーズの出版に全面的に協力して下さい下さった日本福音同盟、また側面から支援して下さい下さったノールウェー・ルーテル伝道会に心から感謝の意を表わします。

1983年4月3日イースター

関西ミッション・リサーチ・センター (KMRC)

理事長 服 部 嘉 明

(付 記)

本書のため巻末に、世俗化問題に関する参考資料を、宇田進博士（共立基督教研究所々長）の労により載せさせて頂きました。

感謝とともに。

服 部 嘉 明

# 目 次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 序 論                            | 1  |
| 1. 世俗化の定義とその性格                 | 2  |
| (a) 定 義                        | 2  |
| (b) 世俗主義と世俗化                   | 5  |
| (c) 現代主義の挑戦                    | 6  |
| (d) 世俗化、多元化、個人主義化              | 8  |
| 2. 聖書の基盤とメッセージ                 | 9  |
| (a) 聖書の基盤の必要性                  | 9  |
| (b) 聖書の世界観とそれに対する人間の関係         | 10 |
| (c) 世俗の人間の状況                   | 12 |
| (d) 神の行為である福音                  | 14 |
| (e) 福音と富裕                      | 16 |
| (f) イエスと人々                     | 20 |
| 3. 世俗化した人々の必要                  | 23 |
| 4. 教会に対する世俗化の影響                | 27 |
| (a) 世俗化した教会                    | 27 |
| (b) 世俗的価値観とクリスチャンの価値観          | 28 |
| (c) 教会内にある世俗化に対し、教会は現実はどう対抗するか | 29 |
| 5. 世俗化した人々への伝道の戦略              | 32 |
| (a) 教会は柔軟でなければならない             | 33 |
| (b) 教会外の世俗化した人々に対する証し          | 36 |
| (c) 世俗化した人々の目標グループ             | 38 |
| (d) 世俗化した人々をどうやって獲得するか         | 42 |
| (e) 必要とされている、神の見通し             | 47 |
| (世俗化問題に関する参考資料)                | 50 |

## 序 論

この記録は基本的には世俗化した人々に、われわれがどうやって福音を到達させるかという戦略に焦点が絞られている。まず、目標にしているグループを明確にするために、「世俗化」と「世俗」の理解を広い意味で定義づけたいと思う。更に、いくつかのグループの作業の中で、われわれはこの世だけではなく、教会もその神学において、また宣教に関する見解においても、社会全般に進行している世俗化の影響を受けていることがわかった。又、世俗化はキリスト教のみが対決している現象ではなく、これは相当広範囲に他の宗教にもいえることであって、その信者達は現代の世俗的な文化及びイデオロギーと対決していることがわかった。そこで、この報告は、「キリスト教」の文化に関わるものだけではなく、第二、第三世界で増加している「宗教離れ」した人々に関わるものでもある。世俗化は西欧の現象にとどまらず、世界的な現象である。この報告書に掲載されているある見解は、かなり異った世俗化した文化の脈絡の中にも適応できるかも知れないと考えられる。